

発行所 医療法人財団五省会西能病院 〒930 富山市五福1130 TEL (0764) 41-2481(代) 発行人 西能 正一郎

五省会ニュース

五省

- 一 至誠に悔るなかりしか
- 一 言行に恥づるなかりしか
- 一 気力に欠るなかりしか
- 一 努力に憾みなかりしか
- 一 不精に怠るなかりしか

地域に開かれた病院を

健康教室や在宅療養 活動する「地域医療チーム」

地域社会に開かれた病院を実現するため、西能病院の地域医療チームは、「健康教室」や「在宅療養活動」などで積極的な努力を続けている。来年からは、「入浴専用車」を配置するなどして、さらに活動範囲をひろげることとしている。

地域医療チームは、医療部長（西能弘副院長）を責任者として、保健婦三人、渉外課二人、ソーシャルワーカー一人で編成されている。

活動としては、

- (一) 毎月第四金曜日（午後七時から）に地域の皆さまを対象とした「健康教室」を病院内五階ホールで開催している。毎回五十人ほどの参加者がある。
- (二) 毎週水曜日の午後から「在宅療養活動」（在宅酸素療法を含む）を行っている。定期（水曜日）のほか随時もある。
- (三) 退院後、慢性化した状態で在宅療養生活をし、引き続き医療とのかかわりや、看護の援助を必要としている人たちの対象としたもの。

院内、院外のコミュニケーションを図るため、毎月一回、病院内五階ホールで「写真会」を開催している。

(一) 24時間テレビチャリティ委員会から今年中に贈呈される「入浴専用車」は、来年から活動を始める。在宅なごり老人の入浴サービスをおこなう。

「患者さんから募った「闘病記」の文集を近く発行する。

広く深い役割

同チームの渡辺渉外課長心得の話。

「地域医療チームの活動範囲は、医療から保健、福祉に及び、広く、かつ深いものです。課せられた役割は、今後ますます重要になってくると確信しております。

だから、一つ一つの仕事を前例のない、新しい道を踏んでいく状況であります。チーム一同、一生懸命に頑張っておりますので、よろしく願っています。」

「入浴専用車」が贈呈されたことが十月二十日に決まった。

この贈呈車は、今年八月に催された第十回チャリティで、全国民から寄せられた暖かい善意の募金により購入されたもので、今年中に贈呈される予定。

入浴車の特徴は、定温給湯方式を採用、車内で正確な必要温度に調節できる電子温度コントローラが±0.5℃までの変化に際する精度を持っている。

世界一長寿国

西能 正一郎

大阪の万国博覧会があったのは昭和四十五年、今から十七年前のことです。この年にもう一つ特筆すべきことは日本が高齢化社会に参入した年でもありました。

高齢化社会というのは、六十五才以上の高齢者が国民の七割以上を占めるようになった社会をいふのでありまして、その後、わが国の高齢化は急速に進み、現在は一〇・三%、このままで行けば、昭和七十一年には高齢者の割合が一四%以上となり高齢国家となるであろうと統計学者は言っております。

百歳を目標に、生き生きと… 優先の老人医療費対策

優先の老人医療費対策

即ち、私が七十才になり老人の中堅どころに坐る頃になりましたら、国民七人に一人一人という割合になります。生産人口で考えますと、三、四人で一人の老人の生活を支えなければならぬということになります。高齢化のスピードが諸外国に較べて早すぎるので、経済のバランスがく

ずれるのではないかとということが、今、国を挙げて、殊に厚生省が頭を痛めている高齢化対策なのであります。

高齢国家になりますと、当然、色々な問題が出てきますが、その中でも、昨今は医療費対策が全てに優先して取り上げられ、老人保健法の見直し、老人保健施設の創設など、老人のための医療資源の合理的な使い方が考えられるようになります。

私共の祖父の時代は、人生五十年と言われ六十才頃までも生きておれば、本人も周囲も納得した時代でした。それに較べて、女、八十才、男七十五才という世界一の長寿国になった今では、そう簡単に死ぬわけにはいきません。この数字は、生まれてすぐ亡くなった赤ちゃん、その他交通事故や色々な病気で早死にした人達も含めての平均ですから、今すでに六十五才以上の老人達や、平均寿命に見事到達した老人の皆様に平均値を保つために生きて居れば居るだけ、まだまだという答が返ってくるはずでありついでに、もうこれより引退は絶対に渡され

も大きく変化をとげようとしている。この冬の時代に生き残るためには種々の工夫、努力が必要である。

地域社会に開かれた病院であることは、つぎの三つのメデイカル部門がお互いに有機的に連携し、それぞれの機能を十二分に発揮し合う「三位一体・メデイカル部門」にある。

(一) 病院本来の役割を十分に発揮する中核としての「メデイカル部門」(二)メデイカル部門の以前に存在する地域社会の医療・保健福祉等の課題に対処する「プレ・メデイカル部門」(三)メデイカル後の諸課題に対処する「ポスト・メデイカル部門」。

あすなろ

「頃の町だよ 八尾の町は… 流れるおわら節に、看護婦さんの踊りの列が、百余人の患者さんの間を縫って続く。西能病院で催された珍しい月見の会だ。手拍子や掛け声、はやしも飛んで、なごやかな会場大ホールには、心づくしのススキや、色とりどりの草花、野菜、果物などを供えた祭壇も設けられている。外には中秋の明月に一日早い丸く明るい月の光がさえていた。二カ月上入院の患者さんが四人に一人、患者さんが四人に一人、車イスとリハビリの味気ない療養生活に少しでもうるおいを―と看護婦さんたちが企画したものだ。患者さん同士、患者さんと看護婦さんとの楽しい交流のひとときをもちょうという意味もある。この企画は大成。翌日に顔を合わせた患者さんたちが「楽しかったね」とあいさつ代りに言葉をかけ合う風景が、あちこちでみられた。お茶にお菓子、お土産も楽しかったが、何よりうれしかったのは忙しい中の看護婦さんたちの温かい心のプレゼントだった。▼「忙」の字はココロ偏に亡(な)クスと書く、忙しくなるとついでに顔がけわしくなり、思いやりの心を亡くし勝ちになる。それを胸のこころにこぼすように、「笑顔」で克服するゆとりのある心。病院中が、いや、富山県中、全国津々浦々にこの笑顔の輪が広がった時、日本はきっと明るい、住みよい国土になるだろう。

「入浴専用車」が 24時間テレビチャリティから

地域医療に尽している西能病院に、「24時間テレビ」(愛は地球を救う)チャリティ委員会(池松俊雄委員長)から福祉車両「入浴専用車」が贈呈されたことが十月二十日に決まった。

この贈呈車は、今年八月に催された第十回チャリティで、全国民から寄せられた暖かい善意の募金により購入されたもので、今年中に贈呈される予定。

入浴車の特徴は、定温給湯方式を採用、車内で正確な必要温度に調節できる電子温度コントローラが±0.5℃までの変化に際する精度を持っている。

患者さんの闘病記から― 心のゆとりが

患者さんの闘病記から― 心のゆとりが

「患者さん同士の交流のひとときをもちょうという意味もある。この企画は大成。翌日に顔を合わせた患者さんたちが「楽しかったね」とあいさつ代りに言葉をかけ合う風景が、あちこちでみられた。お茶にお菓子、お土産も楽しかったが、何よりうれしかったのは忙しい中の看護婦さんたちの温かい心のプレゼントだった。▼「忙」の字はココロ偏に亡(な)クスと書く、忙しくなるとついでに顔がけわしくなり、思いやりの心を亡くし勝ちになる。それを胸のこころにこぼすように、「笑顔」で克服するゆとりのある心。病院中が、いや、富山県中、全国津々浦々にこの笑顔の輪が広がった時、日本はきっと明るい、住みよい国土になるだろう。

この欄では、患者さんが書かれた闘病記を時々紹介させていただきます。今回は、胸膈損傷のため車椅子生活を余儀なくされたM・Hさん、55才、男性、の方の「偶感」と題された手記を紹介させていただきます。

「車椅子に身を置くようになってからすでに六年が過ぎた。知人に会うと今でも「大変ですね。頑張ってください」とよく言われる。そんな時、根が楽天的なせいなのか、自分の姿が人にはそんな大変に見えるのかなあ、と改めて感じることも多い。確かに今の私は自力で歩くことはおろか、立つことさえ出来ない。ところがこのいかに惨めと思える状態も、全く別の角度から眺めると、そのようなハンディを十分帳消しにする程の、いわば精神的恩恵とでも言えるものがいつの間にか自分に与えられているのに気付くのである。即ち「心のゆとり」がそれである。(抜粋) 続けて、M・Hさんは身障者になったが故の利点として時間に追われるということが少なく自分だけの時間がふんだんにある、そのためか物事をかなり深く思索するようになった。又、欲望も縮小化させてこれだけというささやかな欲求に安んじ、今の私の精神状態の安定にどれ程役立っているか分からない。と述べておられます。そして、神仏及び常々暖かい支援下さっている数多い善意の方々、ここで改めて深い感謝の念を表すものであります。と締めくくっておられます。

全文を紹介できないのが残念ですが、私はこの手記を拝見させていただき大変感動致しました。そして、何度も何度も読みかえしました。もし自分が身障者になったらこのような気持ちになりえるものか、M・Hさんは健康者であってもいつかはこのような気持ちになりえる方ではあると思うが、今の自分の気持ちを受け取り、ささやかなるに素直に表現しておられる、患者さんから教えられるとはこういう事さういふのだと……。M・Hさんは、自宅で学習塾を開いていらっしゃるということですが、週に二度、リハビリに通っておられます。その姿は、いつも明るくさわやかです。彼の姿に勇気づけられ励まされている患者さんも大勢いらっしゃるのだらうと思えます。「いつまでもお元気な姿を見せて下さい」と私もその後姿に向かっ中心の中で叫んでいました。「患者さんの闘病記については今年中に発行される予定です。」

(医療ソーシャルワーカー 高村美和子)

病院だより

十月

研修会に両婦長

二、四日、富山技能開発センターで開かれたMTP管理研修会(県PTAスチック工業会主催)に川西信子、津田勝美両婦長が出席。

六日、五階小会議室で誕生会。十二人出席。

「月見の会」を

六日、「月見の会」が午後七時から五階ホールで、入院患者さん百十人が出席して開かれ、車椅子で参加の姿も見られた。単調な入院生活に情緒を、と、看護部が企画したもの。会場いっぱいになる。



七日、富山市医師会看護専門学校看護学科戴帽式。看護部から五人。

頸椎脊柱管狭窄症

との戦い

③

荒井紀夫

みだけでもと思い、頸椎硬膜外注射をしてもらっ

あちこちに電気が走る

手術をすすめる家族

二月二十三日(昭和六十二年)とうとう、がまんがで、外来で診察してもらおう。覚悟していたとおり、脊髄症状がでてきたうちは、手術が近いと診断された。

しかし、まだ私自身はまよっている。せめて富山市の社会福祉協議会から頼まれた講義(二月二十四日から三月十日まで)が終るまで、なんとかのばしたい。せめて痛

八日、富山市連婦人運動会の救護活動。

「健康フェア」に招待

に招待

九日、十一日、「87とやま健康フェア、健康とスポーツフォーラム」が富山市友杉の富山産業展示館で、やく三十コーナーを設置して開かれ、西能病院も招待された。

なお、冬は雪見、春は花見、夏は海辺のドライブ(バスで)を考えている。(写真)左



相談コーナー(健康、スポーツ)外来、栄養、コンピュータコーナー、ビデオコーナー、パネルコーナーのほか、腰痛、関節症、高血圧など十一種類のパンフレットを配布した。

病院側から西能副院長、吉岡、星野両医師をはじめ職員六人が応じた。

映画会を

を

十八日、地域医療チームの企画した「映画会」が五階大ホールで、院内患者さん、地区の人たち七十九人が集まって開かれた。ホワイト博士のKNBニュースや腰痛でお悩みの方へのビデオを鑑

賞したあと、「男はつらいよ、寅次郎夢枕」に一同は大喜びだった。

「健康フェア」は毎月一回、催される。

新採用の歓迎会

を

二十一日、新採用(六月から十月二十日まで)の職員十一人の歓迎会が午後五時半から五階大ホールで開かれた。西能院長から「どういうコミュニケーションの場をつくって仲良くやっていきたい。皆さんは持ち味をだして貢献して下さい」の挨拶のあと、和気あいあいの中で談笑のひとときをすごした。(写真)左

歓迎をうけた人たちはつぎのとおり。

星野清(診療部) 中永久光(企画管理室) 渡辺裕之、小林稔、伊藤勝仁(以上事務部) 黒田栄子(栄養部) 浅野美津枝、川端恵子、村上弘子、細川元美、中山恵美子(以上看護部)

れから手術をしても障害が残るかもしれないことを打ち明ける。女房も覚悟を決めてくれて、「家のこと、子供たちのこと、たしかに大変な時期だけど、私ががんばるから早く検査をして手術を」と励ましてくれる。長男は「そんなに痛く苦しいのなら、早く手術して楽になれば」と軽くいつてくれる。母と長女は「三ヶ月の入院、さびしいだろうなあ」と。

しかし、今週一杯は、いろいろの雑務をきちんと整理しなければならぬ。副院長と相談して、三月二日の入院ときまる。

(西能病院リハビリテーション課長)

が大阪厚生年金会館で開かれ、西能院長が「中小病院の医療経営と今後の展望」と題して講演。

一日、北信越大学パレの救護活動。

七、八日、スポーツドクター講習会(長野)に吉岡パラメディカル部長出席。

十日、五階小会議室で誕生会。十四人。

十二日、医療社会事業関係職員研修会(ポルフアートとやま)で高村美和子ソーシャルワーカーが「西能病院の医療相談室の役割」の研究発表。

十一月

職員の慰安旅行

二十二、二十三日、職員慰安旅行。三方五湖、芦原温泉(一泊) 永平寺方面。

二十七日、五階ホールで午後七時から健康教室「喘息について」 星野清医師。

二十八日、富山テレビの「ハイお昼です！」(正午から)に病院が出演。

八日、誕生会。五階小会議室で九人。

十二日、恒例の演芸を競う忘年会。

十八日、五階ホールで午後七時から健康教室。

二十日、映画会(ふれあい劇場) 五階ホールで午後二時から「忠臣蔵」。

十二月

二十三日、午後七時から五階ホールで健康教室「壮年いきいき」と題して山本看護部長。

二十三日、社会福祉・医療事業団主催の病医院経営セミナー「転換期の医療経営と医療の将来」。

二十三日、午後七時から五階ホールで健康教室「壮年いきいき」と題して山本看護部長。

二十三日、社会福祉・医療事業団主催の病医院経営セミナー「転換期の医療経営と医療の将来」。

二十三日、午後七時から五階ホールで健康教室「壮年いきいき」と題して山本看護部長。



地域の皆様とともに歩む

診療科目のご案内 西能病院

★一般受付時間(但し、日曜・祭日は休診です)

診療科目	曜日	午前の部	午後の部
整形外科	月～土	8:30～12:00	16:00～19:00
リハビリテーション科	月～土	8:30～12:00	13:30～19:00
内科	月～土	8:30～12:00	15:00～17:00 (火・金曜日は15:00～19:00)
スポーツ外来	毎週火曜日	※スポーツ障害の治療やスポーツ相談	15:00～18:00
神経内科外来	毎週木曜日		14:00～17:00
循環器科外来	毎週金曜日	※心臓病疾患、腎臓疾患でお困りの方はご利用下さい。	15:00～17:00
泌尿器科外来	毎月第2・第4土曜日		13:30～17:00
形成外科	毎月1回	8:30～12:00	※診療日は受付でおたずねください
在宅療養活動	毎週水曜日	※(在宅酸素療法を含む)	13:30～15:00

★当病院では、

年中無休

いつでも、診療ができるように24時間体制で、チームを編成しています。

救急出動 OK

もし、救急車が必要でしたら要請して下さい。お迎えに上ります。常時2台待機しています。